

平成30年度 第3回奈良県学校・地域パートナーシップ事業 地域コーディネーター連絡会 実施報告書

- 1 日時 平成31年3月8日(金) 13:30~16:00
2 会場 県立教育研究所 中講座室1
3 参加者 学校・地域パートナーシップ事業における地域コーディネーター、学校管理職等 計76名
4 内容 13:15~13:30 受付
13:30~13:35 開会
13:35~14:35 講義
「地域と共にある学校づくり」この10年を振り返って
～コーディネーターに求められるもの～
奈良県学校コミュニティ・コーディネーター 有田 佐
14:40~15:55 情報交換
15:55~16:00 閉会

5 講義概要

- 文科省の「学校支援地域本部事業」以来10年が経った。県内では事業推進に対する一定の成果や結果が見えてきたと感じている。
- 進化充実の様相として、特に印象に残ったこと
- ・素敵なコーディネーターに出会うことが増えた。
子どもにかかる思い、学校や教育に対する希望や期待などを学校とすりあわせながら、学校と地域が協働できる体制を作る上で中心的な役割を担うコーディネーターが増えてきている。
 - ・取組の継続が、世代を超えて受け継がれ、地域住民による「循環」が見られる。
放課後子ども教室や地域未来塾で学んだ子どもたちが大学生になり、ボランティアとして参加しているなど、未来に向けた広がりを見せているところもある。
 - ・多様な連携、コラボレーション(協働の形)が積極的に試行・展開されている。
学校も地域も得るものがある、Win-Winの関係へと発展している地域が各地にみられる。
 - ・これまでの取組をベースとし、教育課題克服に向け、コミュニティ・スクールを導入するところが増えてきている。
- 今後に向けて気にかかること、課題等
- ・人材の固定化や高齢化、地域人材の循環の問題など。
 - ・個人的な頑張りや魅力といった、個人力に頼る取組になっていないか。
 - ・持続可能な取組になるような組織づくり。



6 ワークショップ・情報交換

3~4人でグループになり、情報交換などをしました。自分の地域での取組を紹介し、「地域と共にある学校づくり」がどれくらい進められているか、さらなる推進のために必要なことは何か、考えを深めました。「地域と共にある学校づくり」推進の方策について、グループで討議した内容を全体で共有しました。



7 感想

- ・いろいろな情報が聞けて大変良かった。コーディネーターの役割の大きさを感しました。
- ・様々な市町のコーディネーターの実践を直にお聞きして参考になりました。
- ・立場の近い方が同じテーブルにそろっていたので、大変話しやすく、スムーズに話し合うことができました。
- ・ボランティアとして活動されている方の本音の部分に触れることができた。年度初めに熟議の場を設けたいと感じた。
- ・実情(各地域の様子)を聞かせていただいたのが、参考になりました。

ワークショップの内容について

